

山本恵理 ピアニスト/コンポーザー eriyamamoto.com

大阪府出身。3歳よりピアノを始め、8歳から独学で作曲を始める。高等学校音楽科ではピアノに加え、声楽、ビオラ、作曲等幅広く学び、大学(作曲専攻)に至るまで、数多くのコンサートを行う。

1995年大学院在学中、ニューヨークでトミー・フラナガンの演奏に感銘を受け、ジャズに傾倒。同年、ニューヨークに渡る。ベーシスト、レジュー・ワークマンの勧めでニュースクール大学ジャズ科に入学。ジュニア・マンズ、リアン・レジウッド、アンドリュー・シリル、レジュー・ワークマンなどに師事。在学中より演奏活動を開始し、JVC Jazz Festival、Smalls、Lenox Lounge 等に出演。1999年、自らのトリオでイーストヴィレッジの“Avenue B Social Club”での、レギュラーコンサートを始める。そこで、マッシュ・シップを含む様々なミュージシャンと親交を深める。

2000年からは、グリニッジヴィレッジに位置する歴史あるジャズクラブ“Arthur’s Tavern”に自己のトリオでレギュラー出演、現在に至る。近年ではアメリカ国内では Cathedral Park Jazz festival、Hartford Jazz Festival、Lincoln Center、Blue Note 等数多く出演し、日本全国での定期的なツアーに加え、カナダ、イギリス、ウェールズ、スペイン、ドイツ、イタリア、アイルランド、ジャマイカ等でも頻繁にツアーを行う。イギリスの Cheltenham Jazz Festival、スペインの Terrassa Jazz Festival、イタリアの Time Zone Jazz Festival、アイルランドの Bray/Derry Jazz Festival をはじめとするメジャーなフェスティバルにも出演している。

2016年秋には、リーダーアルバムとしては10枚目となる“life“をリリース。結成10年以上のトリオのメンバー、デヴィッド・アンブロジーオ;ベース、竹内郁夫;ドラムスをフィーチャー、その独創的なサウンド、楽曲はアメリカ国内外でも評価が高い。ASCAP(アメリカ作曲家協会)からは、2006年から連続で作曲賞を受賞している。

自己のトリオ、ソロでの活動に加え、ウィリアム・パーカー、ダニエル・カーター、ウィット・ディッキー、ロン・マクラーア、ハミッド・ドレイク、ブッチ・モリス、ポール・マカンドレス、イヴ・レバイエ等、様々なミュージシャンとも共演。特にベーシスト、ウィリアム・パーカーのアルバム“Luc’s Lantern”と“Corn Meal Dance”での演奏は、国内外で高い評価を受ける。彼のトリオ、セクステットのメンバーとしてアメリカ、カナダ、イタリア、オランダ、ノルウェー、チュニジア、南アフリカ、ポルトガルをはじめとする数多くのツアーにも参加している。

2009年には滋賀大学大学院にて音楽教育/作曲の修士課程を修了。演奏活動に加えアメリカ、日本、ヨーロッパ、アフリカ、ジャマイカ等でジャズワークショップ、マスタークラスを積極的に行っている。